

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-31	高等学校	商業科	ビジネス基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
190 東法	商業 702	ビジネス基礎		

1. 編修の基本方針

- ・編修にさいしては、教育基本法第2条の各目的の実現に資する題材を選定し、科目の特性と調和をとりつつ、各目的がこの教科書を通して無理なく達成できるように心がけた。
- ・生徒が主体的に考え、職業と普段の生活との関連性などについて理解を深めることができるよう、生徒にとって身近な例や問いかけなどを本文内に取り入れることを方針として著述した。特に、キャラクターの「考えてみよう！」による問いかけでは、生徒が身近なものや普段の生活を思い返し、それらと学習内容を結び付けて考えることができるような内容になるよう心がけた。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
口絵 i ~ vii	・口絵 i 「ビジネスの学習」で、商業の学習により経済社会の発展を担う職業人としてさまざまな仕事に取り組むことや、商業科のそれぞれの科目と職業との関係を示した（第二号）。 ・口絵 iv 「環境問題・エネルギー問題とビジネス」で、環境問題と新エネルギーの開発、従来型エネルギーの新利用形態について著述し、低炭素社会をめざしたビジネスの重要性を著述した（第四号）。 ・口絵 vi 「為替相場の変動とビジネス」で、外貨両替レートの表示、海外に輸出される中古車、国産自動車メーカーのイギリス工場、中国北京の日本の小売業について取り扱い、国際社会の平和と発展の理解につながるように配慮した（第五号）。	・口絵 i ・口絵 iv ・口絵 vi
第1章 「商業の学習とビジネス」	・「商業の学習で身につけたい力」として、ビジネスの課題をみずから探求し、他者とコミュニケーションをとりともに働きながら経済社会の発展に貢献していくことについて著述した（第三号）。 ・「商業の学び方」として、みずから興味をもって主体的に知識や技術を身につけることや、地域社会での体験的な学習をととして主体性や創造力、他者と協働していく力などを養う	・3 ページ 5 行目 ~ 17 行目 ・4 ~ 5 ページ

	ことについて著述した（第一号，第三号）。 ・働くことの意義や職業と生活，商業の学習との関連性について著述した（第二号）。 ・消費者のニーズが精神的な満足や地球環境を守ることにあをることを著述した（第四号）。 ・「ビジネスと企業の社会的責任」として，環境への配慮や人権の尊重，コンプライアンスの徹底などをおして商品やサービスの価値を向上させ，社会に貢献することについて著述した（第三号）。 ・それぞれの国の文化や歴史，慣習を尊重し，国際的な理解のうえに立ったビジネスが必要なことを記述した（第五号）。 ・地球環境問題とビジネスについて，環境ビジネス(エコビジネス)，廃棄物の発生抑制・再使用・再資源化・再生可能エネルギーなどの観点から著述した（第四号）。	・ 6～7 ページ ・ 8 ページ 5 行目～7 行目 ・ 8～9 ページ ・ 13 ページ 1 行目～2 行目 ・ 16 ページ 12 行目～17 ページ
第 2 章 「ビジネスに対する心構え」	・ビジネスにおいて必要とされる倫理観，責任感や，ビジネスをおして社会に貢献する意識などについて著述した（第三号）。 ・ホスピタリティについて説明し，ビジネスの諸活動をおして社会全体の経済発展に寄与しようという心の姿勢を養うことについて著述した（第三号）。 ・「ホテル業界のホスピタリティにあふれた接客の例」として，外国からのお客さまに対しては，それぞれの国の習慣，慣習に配慮したおもてなしをおこなうことについて著述し，他国を尊重することに対する理解を深めることができるよう配慮した（第五号）。	・ 22～25 ページ ・ 37 ページ ・ 37 ページコラム
第 3 章 「経済と流通」	・環境の保全が企業の社会的責任であることを著述し，容器包装リサイクルについても著述した（第四号）。 ・環境を考慮した自動車輸送の輸送手段として電気自動車やハイブリット車への切り替えが急がれていることを著述した（第四号）。 ・環境負荷軽減をはかるモーダルシフトについて図解で説明した（第四号）。	・ 72 ページ 19 行目～73 ページ 4 行目 ・ 76 ページ 15 行目～18 行目 ・ 77 ページ図版
第 4 章 「企業活動」	・企業の社会的責任（CSR）について，社会的信頼の観点から著述した（第三号）。 ・性別を理由とする雇用の差別を禁止する男女雇用機会均等法について著述した(第三号)。	・ 142 ページ 2 行目～15 行目 ・ 142 ページ 19 行目～20 行目
第 5 章 「身近な地域のビジネス」	・地域おこしに貢献する自動車メーカーが，地球温暖化防止に取り組み，「低炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の構築をめざすビジネスをおこなっている例を示した（第四号）。 ・身近な地域のビジネスにはどのようなものがあるか，衣食住に着目して考えることを促し，ビジネスと生活との関連性について理解を深めることができるよう配慮した（第二号）。 ・異なる文化的背景をもつさまざまな人が共生する多文化共生について著述し，自国の文化とともに他国の文化を尊重することについて理解を深められるよう配慮した（第五号）。 ・地域のビジネスを振興するために，地域の住民との共生や自然環境との調和をはかり，持続可能なビジネスを創造して	・ 150 ページ 11 行目～13 行目 ・ 151 ページキャラクター吹き出し ・ 154 ページ 18 行目～155 ページ 3 行目 ・ 157 ページ 2 行目～4 行目 ・ 159 ページ 2 行目～9 行目

	いくことの重要性について著述した（第四号）。 ・「地域資源と住民の結びつきによる地域ビジネス」として香川県直島町を例に挙げ，地域住民や作家，観光客などさまざまな人の協力や交流が地域の活性化につながったことを示した（第三号）。	
第 6 章 「取引とビジネス計算」	・ポンド紙幣，ユーロ紙幣の写真を掲載するとともに，日本・アメリカ・EU・イギリス・中国の通貨単位・記号・補助通貨単位について示し，国際社会への理解が促進できるようにした（第五号）。	・ 191 ページ
口絵Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ	・口絵Ⅸ，Ⅹ「地域連携と地域ビジネス」として日本各地のさまざまなビジネスを紹介し，地球環境へ配慮したビジネスや，地域の伝統・文化によるビジネス，他国の文化を尊重し協力することにより成り立つビジネスなどについて理解が深まるように配慮した（第四号，第五号）。	・ 口絵Ⅸ，Ⅹ
3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色		
「社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき，個性に応じて将来の進路を決定させ，一般的な教養を高め，専門的な知識，技術及び技能を習得させること」（学校教育法第 51 条第 2 号）の観点から，第 1 章「商業の学習とビジネス」では特に，ビジネスに関する理論と知識の習得と同時に，ビジネスに関する技術の習得についても記述した。また，将来の進路について考えることができるよう，7 ページでは商業の学習分野と該当科目，職業との関連性について図で示した。		

編集趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-31	高等学校	商業科	ビジネス基礎	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
190 東法	商業 702	ビジネス基礎		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ・ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させるために、章末に練習課題を設けた。
- ・生徒の主体的な学習を促すために、第1章の練習課題では先輩の就職先や進学先の調査、第2章の練習課題では今売れている普通乗用車や売れている曲に関する情報の収集と分析、第3章の練習課題では好景気と不景気の特徴や消費財と生産財の種類と特徴などを400字から800字でまとめさせる問題、第4章の練習課題では私企業の形態と特徴などについて400字から800字でまとめさせる問題、第5章の練習問題では身近な地域の特色を生かした地域振興策をグループで話し合い発表する学習課題、第6章の練習課題では小切手の振り出し・支払い・不渡りなどについて400字から800字でまとめさせる問題を掲載した。
- ・授業の配分をしやすいように、本文はすべて見開き構成とした。
- ・すべての見開きに図やイラストを掲載して、生徒の興味・関心を引きつけ、理解が高まるように配慮した。
- ・キャラクターの吹き出しを用いて、クラスで話し合ったり、生徒が自発的に考えたりできるような問いかけをおこない、生徒の理解を促進し、学習意欲を高めるように配慮した。
- ・経済の国際化の進展をふまえ、基本的な用語は英語表記とあわせて指導できるように、必要と思われる用語には英語表記を適宜付した。
- ・経済社会の一員としての望ましい心構えを身につけさせるために、第2章第1節に「信頼関係の構築」として節を設け、あいさつ・正しい姿勢・お辞儀のしかた・身だしなみ・表情・座り方・話の聞き方と話し方・電話応対・訪問と来客応対などのビジネスマナーについて記述し、倫理観・責任感・協調性および社会貢献の姿勢やホスピタリティの重要性を強調した。
- ・ホスピタリティに関しては、接客や接遇の場面だけでなく、社会の一員として互いに協力し合い、信頼関係を築いていく上で常に意識すべき姿勢であることを示し、ビジネスにおける信頼関係の構築について理解が深まるように配慮した。
- ・情報化社会といわれる現代において、生徒が信頼性の高い情報を入手し分析できるように、客観的信頼性の高い情報をグラフなどで多数掲載した。
- ・身近な地域の課題や振興策について、具体的な事例を複数取り上げ、キャラクターによる問いかけをおこなうことにより、生徒が自分の身近な地域に照らし合わせ、主体的に考え学習することができるように、配慮した。

2. 対照表

	図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配 当 時数
第 一 章 商 業 の 学 習 と ビ ジ ネ ス	<u>第1節 商業を学ぶ重要性と学び方</u> 「商業で身につけたい力」や「商業の学び方」などについて図解し、商業の学習の基本がより理解しやすくなるように心がけた。また、キャラクターの吹き出しを用い、具体的な設問を通して商業の学習について考えさせ、生徒の学習意欲を高めるよう配慮した。第1節の冒頭では、身近な生活にビジネスがどのように関わっているかを示し、ビジネスへの理解を深め、商業の学習の動機づけをおこなうことができるように配慮した。	(1)商業の学習とビジネス ア 商業を学ぶ重要性と学び方	2 頁～7 頁	2
	<u>第2節 ビジネスの役割</u> 日常的に利用している商品やサービスについて考えさせる問いかけを設け、より具体的なイメージをもってビジネスの役割を理解することができるよう配慮した。	(1)商業の学習とビジネス イ ビジネスの役割	8 頁～11 頁	1
	<u>第3節 ビジネスの動向と課題</u> ビジネスの動向について「グローバル化」「情報化」「サービス経済化」「科学技術の進歩」という4つの観点から著述した。特に、今後も発展が望まれ、生活にも浸透しはじめた ICT や IoT, AI などについて取り上げ、生徒が興味と具体的なイメージをもってビジネスの動向について考えることができるように心がけた。	(1)商業の学習とビジネス イ ビジネスの役割 ウ ビジネスの動向・課題	12 頁～19 頁	2
	<u>練習問題 3</u> グループを編成し、先輩の就職先や進学先などを調査し、自分の進路についても考える学習活動を取り入れた。	(1)商業の学習とビジネス ア 商業を学ぶ重要性と学び方	20 頁	

第二章 ビジネスに対する心構え	<u>第1節 信頼関係の構築</u> 接遇について、ビジネスシーンにおける具体的な流れを示した。イラストを多く掲載し、生徒が実践するにあたって、わかりやすい例示を心がけた。	(2)ビジネスに対する心構え ア 信頼関係の構築 イ コミュニケーションの基礎	22 頁～37 頁	4
	<u>第2節 良好な人間関係とコミュニケーション</u> コミュニケーションを企業内と企業外の2つに分けて、具体的に取り上げることで、習得を促した。	(2)ビジネスに対する心構え イ コミュニケーションの基礎	38 頁～41 頁	1
	<u>第3節 情報の入手と活用</u> 情報化社会を踏まえ、インターネットを利用した情報収集の方法について丁寧に著述した。また、収集した情報に対して合理的な判断を下せるように、イラストやセリフなどを用いて非合理的な思考の例を示した。	(2)ビジネスに対する心構え ウ 情報の入手と活用	42 頁～51 頁	3
第三章 経済と流通	<u>第1節 経済の基本概念</u> 相関図を用いて、経済主体とその相互関係が理解できるよう心がけた。 トレード・オフと機会費用については、別にページを設け、生徒が将来直面しうであろう状況を例とした。	(3)経済と流通 ア 経済の基本概念	56 頁～59 頁 106 頁～107 頁	1
	<u>第2節 流通の意義と役割</u> 流通の必要性や働きについてイラストなどを用いて図解し、具体的なイメージをもって学習を進められるように配慮した。	(3)経済と流通 イ 流通の役割	60 頁～71 頁	4
	<u>第3節 ビジネスの諸活動</u> キャラクターの問いかけにより、学習した内容についてさらに考え、理解を深められるように配慮した。ビジネスの諸活動については、製造業者、物流業者、売買業者の順に学習できるようにし、商品の流通についてより理解しやすくなるような構成を心がけた。	(3)経済と流通 ウ 流通を支える活動	72 頁～105 頁	10

第 四 章 企 業 活 動	第1節 企業の形態と組織 生徒が就職に対して希望をもち、意欲的に取り組めるよう本節の冒頭に起業家精神についての記述を配置した。	(5) 企業活動 ア 企業の形態と組織	112 頁～121 頁	5
	第2節 企業のマーケティング活動 「あるメーカーの緑茶飲料市場への新規参入」の事例を図で示すことで 4P 政策について理解の促進をはかった。	(5)企業活動 イ マーケティングの重要性と流れ	122 頁～125 頁	1
	第3節 資金の管理と調達 資金の必要性を解説し、重要性について確認した。そのうえで、前述の企業の形態と関連付けて説明した。	(5)企業活動 ウ 資金調達	126 頁～129 頁	1
	第4節 財務諸表の役割 貸借対照表と損益計算書について、それぞれ具体的な例を示し、視覚的に読み方や作成のしかたを理解できるように配慮した。	(5)企業活動 エ 財務諸表の役割	130 頁～133 頁	1
	第5節 企業活動に対する税 税の意義について記載し、納税は企業の社会的責任であるという納税の重要性について理解したうえで、学習できるよう配慮した。	(5)企業活動 オ 企業活動に対する税	134 頁～139 頁	2
	第6節 雇用 「同一労働同一賃金」や「ワーク・ライフ・バランス」についてのコラムを設置し、労働に関する現状について理解を深められるようにした。	(5)企業活動 カ 雇用	140 頁～145 頁	3
	練習問題 7(4) 雇用の安定や福利厚生など雇用にともなう企業の責任について事例を調べ考えることができるようにした。	(5)企業活動 カ 雇用	148 頁	
第 五 章	第1節 身近な地域の課題 キャラクターによる問いかけを設置し、生徒が自分の住む地域や普段の生活に照らし合わせて考えながら学習を進められるように心がけた。	(6)身近な地域のビジネス ア 身近な地域の課題	150 頁～153 頁	2

身近な地域のビジネス	<u>第2節 身近な地域のビジネスの動向</u> 地域ビジネスの事例を複数取り上げ、生徒がより具体的なイメージをもって地域ビジネスについて考えられるように配慮した。	(6) 身近な地域のビジネス イ 身近な地域のビジネスの動向	154 頁～159 頁	3
	<u>練習問題 3</u> グループを編成し、身近な地域の特色について話し合い、その特色を生かしたビジネスの振興策を考案し発表する学習活動を取り入れた。	(6) 身近な地域のビジネス イ 身近な地域のビジネスの動向	160 頁	
第六章 取引 ビジネス 計算	<u>第1節 売買取引の方法</u> <u>第2節 代金決済の方法</u> <u>第3節 電子商取引と代金決済</u> 「新たな決済手段」として「電子記録債券」や「暗号資産（仮想通貨）」について著述した。暗号資産については、信頼性と安全性を保つためのしくみについて説明した。また、近年よく見られるようになった多機能携帯端末(スマートフォンなど)を使用した決済手段について図解とともに説明し、現代におけるさまざまな決済手段について理解が深まるように配慮した。	(4) 取引とビジネス計算 ア 売買取引と代金決済	162 頁～187 頁	8
	<u>第4節 計算用具の歴史</u> <u>第5節 ビジネス計算の方法</u> 生徒の理解度を勘案し、度量衡や貨幣の単位の換算など比較的平易な計算を先に学習したのち、仕入原価や売買損益の計算を学習できるよう配置した。	(4) 取引とビジネス計算 イ ビジネス計算の方法	186 頁～221 頁	16
			計	70